

い、關東にてねぎといふ、ねぶかとは根ぶかく土に入こゝろ、胡葱は淺き葱の意、根深に對じたるの名なるべし、つは助字なり、和名きといふ、故に一文字と云、分葱はわかつらとる義、刈葱は刈とる義とぞ、又ひともじを詠せし歌に、

引見れば根は白糸のうつば草ひともじなれど數の多さよ。
 〔倭訓菜前編七〕き。○中。葱をよむは氣の義也、根葱分葱、刈葱など稱せり、根を賞すべく分て探べて、刈て用うべきの名也。

〔倭訓菜前編二十二〕ねぎ。○中。葱をいふは本名きにて、根を賞するものなるをもて、根葱といへる也、和名抄に冬葱ふゆきといへる是なるべし、ねぶかともいふ、根深の義也、禁裏女中のいふは大根也とぞ、

〔倭訓菜中編二十二〕ひともじ。俗に葱をいふ、きといふ、一文字の義な故、今専ら夏葱をいふ、かりきともいふ、刈葱の義、科葱なりといへり、春葱をわけざといふ、葉をかきて用う、漢葱なりといへり、禁裏にうつば草といふ、

〔七十一番歌合〕四十番 左

葱うり

紅葉せで秋も萌黃のうつば草露なき玉とみゆる月哉

戀といふ一もじゆへにいかにしてかきやる文のかす盡ずらん

〔本朝食鑑〕三辛古訓紀今訓補岐葱又曰比登毛志

釋名、冬葱順凍葱上同順必大平野按今亦有冬春二種、冬葱和名布由、凍葱即冬葱也、

集解、春葱種子、春末開花成叢、青白色、其子味辛色黑、有皺文、文作三瓣、收取陰乾、勿令浥鬱、可種可栽、初生葉細如針、根亦細白、稱加利岐、可爲羹可生食、生食和醋味增則彌好、至五六月、莖粗硬如木、不耐食之、冬葱者無子移根、根有白莖著衣、植之生黃青芽、芽葉及白根、柔細而香、經冬至春、其味尤佳、入藥